

III. 海外の標本

(2) トラバーチン 実物ブロック標本

標本番号 KPM-NL 441

標本名 トラバーチン

大きさ 高さ 50 ～ 250 cm、直径 40 ～ 100 cm の塔状物、計 8 点

重量 展示中のため不明

形状・展示・収納状況 塔状物を現状復元して常設展示（地球展示室）

採集地 ジブチ共和国ディキル州ハンレ地区 アッベ湖周辺

緯度・経度 N11°10', E41°47'

標高 海面下

露頭の種別 大地溝帯内の平原

露頭面の向き、傾斜 平坦な地形面

堆積物の種別 石灰質沈殿物

年代 現世

採集作業者 森山哲和（考古造形研究所）

採集日 1993 年 9 月 18 日

解説 展示標本は、温泉に含まれていた石灰質成分が固結してできた塔状物の現状保存資料である。採集地のアッベ湖（Lake Abbe）は、エチオピアとジブチの国境上に位置する塩湖である。アフリカ大地溝帯とヨルダン溪谷・紅海に連なる地溝帯、そしてインド洋中央海嶺につながるカールスバーク海嶺の 3 つの拡大軸が接するアフール三重点の中に位置する。アッベ湖周辺では、湧出する温泉に含まれていた石灰質成分が固結して、大小さまざまな奇岩群を作り上げている。

現地では塔状物の周囲を保護した状態にして、奇岩をそのままブロックとして採取（切り取り）して運搬し、現状復元を行った。

記録者 平田大二



図 III-2-1. 採集地点の露頭の様子。



図 III-2-2. 採集作業の様子.



図 III-2-3. 標本の展示の様子（地球展示室）.